

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム さくらおか
所在地 (県・市町村名)	登米市 米山町
記入者名 (管理者)	星 学
記入日	平成19年6月25日

宮城県

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・運営方針に「地域の一員として」という文言が盛り込まれている。 また、事業所独自の理念を玄関先に掲示している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・毎月会議を持ち話し合える機会を作っている。 ・常に見える場所に理念を掲示している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・玄関の見える場所に掲示している。 ・毎月家族にその月の様子を手紙に書き送っている。	<input type="radio"/> ・地域の方にも、どの様な所なのかを知ってもらえる様に気軽に参加できる行事などを考えたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	・近所に畑を作っている方がおり、野菜の話などを互いに交わしている。	<input type="radio"/> ・今後も近隣の方々との関係性の強化に努め、生活の幅を広げていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・老人会の総会などに顔を出し、事業所をアピールしている。また、地区の防災訓練や選挙などにも参加している。	<input type="radio"/> ・「さくらおか」から参加を誘う活動をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・取り組みが弱いと思う。	○	・認知症などについて気軽に話し合いや意見の交換ができる場所や時間をつくりたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・外部評価などから得た改善点はすぐに話し合い、改善すべき点は直すようにしている。	○	・今後も、よりサービスの向上を目指し取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議の際に利用者の代表に意見をいただき、サービスの向上に努めている。	○	・運営推進委員の意見を有効に取り入れ、よりサービスの向上を図っていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・疑問が生じたときには、市や関係機関の担当者に相談をして適切な指導を仰ぐようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・研修などに参加して学ぶ時間をつくっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修などに参加して得た知識を他の職員に伝えるようにしている。(職員会議の時間などを使い伝達する時間をもうけている)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約前には家族と十分な話し合いをするようにしている。 ・退所の際も次の受け入れ先などを家族と検討している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・玄関に「なんでも相談箱」(苦情箱)を設置している。 ・苦情になる前の段階で早急に対応し、その結果を話し合い今後につなげるようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・必要に応じてこまめに家族に電話をして、生活の様子や健康状態を報告している。また、毎月請求書を送る際、その月の様子をまとめた手紙と小遣いの出納帳のコピーや領収書を送っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・なんでも相談(苦情)受付箱を設置している。また、第三者委員や施設外窓口の連絡先を明示している。相談(苦情)があった際は、14日以内に解決策を講じるようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月管理者と職員が集まり会議(意見交換等)を行っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・家族の都合により定期通院等の対応が困難であることを事前に把握できた時は、職員が対応できる様に勤務調整をしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・移動や離職は殆どありません。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・初任者研修などには必ず参加できるようにしている。必要に応じて外部研修への参加の機会をもうけている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・外部研修等において同業者と交流し、勉強等学べる機会が設けられている。しかし相互訪問等の時間はない。	○ ・地域の同業者と相互訪問ができる機会を設け、サービスの質を向上していけるように努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・希望休などの意見を聞き、なるべく希望に沿った勤務ができるように努力している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・職能給及び面談制度を導入している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入居前に自宅又は現在利用している施設等を訪問し、一時間程度の面接を行っている。直接本人と話し、様々な環境も考慮しながら思いを受け止められる様努力している。	・入居に至るまでの間の定期的な面接をし、気持ちよく入居できるような信頼関係を構築していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・相談があればできる範囲で対応している。又、他のサービス機関と連絡をとり、専門的な支援方法を紹介してもらうようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談を受けた際に家族とよく話し合い、本人の意向も考えるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居前に併設の特養のショートを利用していただき、その間に職員や利用者が訪問するなどして関係作りに配慮している。また、入居者の状態を考え、混乱が起きぬ様に家族と話し合い、入所の日を考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員は本人と共に日常生活を送ることで、喜怒哀楽を共有したり、知識を教育される等支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・職員は家族が本人と共有できない時間が多いため家族来所時や電話連絡により、本人の状態、思考等把握できている情報を伝え、一緒に本人を支えていくよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・本人の申し出であれば、家族に本人の意志を伝えるようにしている。また通院等の対応を極力家族にお願いしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人や場所があまり把握できていない部分がある。また、馴染みの方の方からホームに来所していただいている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・利用者同士の関係は把握できていると思う。 ・トラブルのないよう気配りをし、孤立することのないような声掛けをし全体で会話するように心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退所された利用者(入院により)に面会に行くなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者がどのような暮らしを送りたいのか、全員は把握できていない部分があるが、極力相手の立場で考える努力をしている。	○	・スタッフ一人ひとりが、個々の会話や行動など、色々な方向から見て、その思いを汲み取れる力を身につける努力をしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・よく把握できていない部分がある。 ・得た情報は職員間で共有するようにしている。		・一人ひとりがバックグラウンドを知り、そこで得た情報をもとにその方にあったケアができるようにしていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・ケース記録に生活の様子、健康面等を記入し、日々の暮らしの変化を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・入居者本意の計画に家族の意見を取り入れた介護計画を作成している。関係者からの情報やアイデアを反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・一ヶ月毎の評価を行い、ニーズ、目標サービス内容の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別にケース記録を記入し、小さな変化や気づきなども、なるべく詳しく記入するようにしている。また、それらを介護計画に生かすようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・家族や本人からの希望は第一に考え希望に添えるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ボランティア(歯磨き、話し相手など)の方に来てもらい職員以外の人も触れ合い、対話できるように支援しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・必要に応じて相談や報告をし、アドバイスをいただいている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・必要に応じて相談をし、総合的なケアマネジメントのご指導をうけている。	○	・何かあった時だけでなく普段から連絡をとり、情報の共有を図りたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・自宅にいた時からのかかりつけの病院を引き続き利用している方が、6名います。通院は家族対応を基本とし協力をいただいているが、必要に応じて直接病院の医師と連絡を取り、指示をいただいている。		・家族に近況報告をこまめにおこない、情報の共有を図り、症状の変化に対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・家族相談の元、専門医やかかりつけの医師に日常の様子、症状の変化等を伝え受診治療を受けるようにしている。		・医師と気軽に相談できる関係を築きながら専門的な治療が受けれるように支援していきたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・入居者に特別な変化が見られた際は、NS(隣接する施設さーらの樹)に相談している。助言をいただき必要であれば受診の対応している。		・引き続き、必要に応じてさーらの樹NSに相談し早めの対応で、本人の負担を軽減できる様に支援していきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院時は、2～3日置きに状況確認のため面会に行き、その際NS等から状態の説明、退院の予定等の確認を行っている。		・引き続き、退院等の対応もふまえて状態の確認や本人面会等の対応をして、本人の不安を軽減できるよう支援していきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・重度化に関しては、家族に本人の状況を伝え、話し合いをし、その結果をケース記録や申し送りノートに記録し情報を共有している。受診の際も記録に残し医師に相談している。	○	・今後も引き続き全員で方針を共有できるようにしていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・その都度、家族に相談のうえ検討対応している。近況等細めに家族に連絡し、情報を共有している。	○	・今後も、家族、かかりつけの医師などチームで情報を共有し症状の変化に対応していきたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・入院後退所となったケースしかない。その際も関係者間で十分な話し合いや情報交換を行っている。		・常に本人にとって一番いい方法に向けて各関係者と相談し、支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・記録については「です」「ます」で記入している。言葉掛けについては、自尊心やプライバシーを損ねないようにしている。	・症状の進行に伴い、その人にあった対応をチームで考え支援していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・働きかけは行っているが選択の範囲は狭いように思える。	・自ら進んで申し出て頂けるような環境作りや働きかけをしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・症状の重い人のペースに職員が合わせている所はある。一人ひとりの希望にそって支援していくよう心がけている。	・個人のペースを大切にしながら、メリハリのある生活を支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・理容については、本人の望む店にいけるようにしている。ほとんどの人は、月一回、町の理容組合の方が来訪した際に、希望を取り行っている。	・女性として、男性として、人としての身だしなみができるよう支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・入居者と職員と一緒に準備し食事をとり、片付けを行うなどメリハリのある生活に向け支援している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・好みのものを一人ひとりの状態に合わせて日常的に楽しめるように支援している。(養命酒、ヤクルトなど個人負担で購入してもらい食事の際や本人が食べたいときにだしている)	・今後も継続して取り組んでいきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・その人の排泄パターンに合わせ、トイレに案内している。現在オムツ使用者はいない。		・その人の精神面を考慮し、その人にあった支援を継続していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・希望があれば午前中にも対応しているが、殆どが午後から寝る前の入浴になっている。一対一で接することができる貴重な時間のため、楽しんで入浴してもらえよう個人に合わせてゆっくり時間をとるようにしている	○	・希望があれば大浴場での入浴や温泉なども楽しんで頂きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・一日の流れは一応声掛けなどを行うが、本人に合わせたペースで生活していただけるように配慮している。休憩は個人の取りたい時に取っていただいている。		・ほとんどの方がベッドなので、畳の上で眠りたいとの希望があれば対応していきたい。(現在1名の方が畳で布団を置いて休まれています)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・食事の準備や片付けの手伝い、草取りなど個人の状態に合わせて役割ができています。外出や買い物などをして気晴らしになるように心がけている。		・状態が不安定な利用者に片寄ってしまうこともあるので、均等に役割や外出などの気晴らしの支援をしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自分で管理している方が、4名います。個人で管理の難しい方は、家族との契約に基づいて施設で管理をしているが、買い物等で品物を自身で選んでいただいたり、支払いを、一緒に確認していただくようにしている。	○	・お金の管理を依頼されている方は、お金が手元がない為自分のお金ではないと思いがちなので、今後、自身で買物の一連の行動をしていただくよう支援を工夫していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・一人ひとりの希望すべてに対する対応は難しい部分はあるが、散歩や買い物など出来る限り希望にそって生活できるようにしている。	○	・今後も、希望にそった対応をしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・家族とのつながりを重視し、細めに連絡をいれてはいるが、家族旅行や入居者同士での外泊の機会はまだつくりたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望があった時は電話をつなぎ、自ら会話をさせていただいてる。また、手紙のやり取りをしている方もいる。		・公衆電話を設置していないため、設置に向けた検討をしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・訪問があった時には、居室、食堂、和室など好きな場所で面会していただいている。プライバシーの配慮にも心がけている。	○	・家族と一緒に参加できるような行事を計画していきたい (バーベキュー、芋煮会など)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・行動が活発な方でも、安全を見守るうえで一緒に散歩するなどして対応している。身体拘束はない。		・今後も常に利用者の立場に立ったケアを心がける。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・施錠は全く行っていない。誤って施錠する入居者が玄関に行った際は施錠されてないか確認をしている。		・利用者や家族が不快に感じることがないように、今後も施錠をしない対応を心がける。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・居室に入る際は必ずノックして声掛けしてから訪室する様になっている。入居者のその日の状況をみながら安全に配慮している。		・今後もプライバシーに配慮するとともに、事故防止に安全確認を徹底していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・果物ナイフなどの持ち込みはこちらで預かり、必要に応じて本人に渡し見守るようにしている。		・入居者の状態にあった適切な取り組みを工夫していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止は常に注意している。研修などにも参加し、防止し努めている。	○	・常に安全に努め細めな気配りを忘れない対応をしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・事故が実際に起きた場合は、適切な対応ができるように訓練は定期的に行っている。	○	・今後も何かあった際は、適切な対応ができるように、定期的に訓練を取り入れていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・地域で行った防災訓練などには参加している。また、地元消防団長に協力をお願いしている。	○	・地域の方に避難誘導に協力していただける関係を構築したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・夜間帯など介護者の手薄になる時間に、外出や転倒の危険がある入居者は、事前に家族と相談し、対応や理解を得るようにしている。		・職員の技術の向上と事故を事前に防ぐための環境の整備を整えていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・その都度、口答での伝達、記録の記入、勤務交代時の申し送り等で、情報を共有し対応している。		・職員一人ひとりが、入居者の小さな変化にも気づき、対応できるようにしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・受薬のつど職員間で申し送り確認している。症状の変化についても情報を共有し家族や主治医に報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・水分摂取量の調整、運動、下剤の調整、繊維質の物を食事のメニューに取り入れる等して便秘の予防に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・個人にあった声掛け一部介助を行い口腔ケアを心がけている。場合によっては家族とも相談し歯科受診をしていただいている。		・レクリエーション感覚で歯磨きやうがいができるような時間を作っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事、水分摂取量に応じて午前、午後のおやつ等で調整している。		・排尿を心配して水分をとろうとしない方もいるので、不安を軽くする対応を工夫し、安心して摂取できるようにしていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・インフルエンザの予防接種は全員行っていたりしている。大きな感染症は今まで出たことはありませんが、風邪などの時は居室で食事を取ってもらうなどの対応をしている。	○	・日々の状態を観察し、異常の早期発見、対応を心がけている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・食器類は使用した都度消毒保管庫に入れ除菌している。まな板、包丁も毎日、消毒している。	○	・今後も衛生管理の徹底に心がける。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関先、玄関にベンチを置いている。		・庭を通る人が寄ってみたいくなるような植物の配置、野菜作りも考えていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・花や壁画等で季節感をとりいれようように心がけている。		・手作りの装飾を進めていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・特に工夫はしていないが、入居者間で居室を訪問しあったり、好みの場所で休まれてりしている。また、廊下にベンチを置き思い思いに過ごしている。		・娯楽室(和室)をもっと有効に活用していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・安心して過ごせる環境を作りを入居の際にお願いし、馴染みのものを持ってきてもらうようにしている。	○	・家族ばかりにお願いするのではなく、職員と利用者が一緒に手作りの装飾を工夫したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・雨の日以外はなるべく部屋や食堂の窓を開けている。冬のみ22度～23度くらいに暖房を設定しこまめに換気している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・各居室にトイレ、洗面台があるので足の弱い人も一人で排泄等が来ている。		・手すりの位置が個人によって使いにくいので、個人にあった対応を工夫していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・自分の部屋を忘れてしまう人のため表札や暖簾に目印をつけている。 ・自室内を今までの生活空間に近づけるように使い慣れた家具などを持ち込んでいただくようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・庭などに花を植えたり、畑を作ったりしている。花の水やりや、草取り、散歩等各自が自発的に作業を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)